

永平寺、文化の伝承

のんびり新聞

まずは簡単に、永平寺についてご紹介しましょう。

永平寺は、道元禪師(どうげんぜんじ)によって開かれた坐禅修行の道場で、曹洞宗の大本山である。寛元2(1244)年、道元禪師が47歳のときに、道場の名を永平寺と改め、修行僧を熱心に指導した。770年以上経った今も永平寺の修行は禅宗の中で最も厳しいと言われ、約160名の雲水(うんすい)と呼ばれる修行僧が修行生活を送っている。

今回、私たちグループの3人で、永平寺を参拝してから、気に入る見所を紹介する。これを読むと、永平寺の参拝が何倍も楽しくなること間違いなし。

永平寺の文化伝承の象徴

最初に向かったのが、「傘松閣(さんしょうかく)」、別名「絵天井の間」。

1階は参拝の方々のための控室や研修・宿泊のための部屋だが、2階は156畳敷きの大広間があり、その天井には昭和初期の有名な画家144人による230枚の日本画が埋め込まれている。

そのほとんどが花鳥風月をあらわした日本画であるが、この中に鯉、唐獅子、栗鼠が描かれた5枚の絵が隠されている。

自分もその圧倒的な景色に驚いた。永平寺のほとんどのところは、僧の修行と坐禅のために作られた。傘松閣は日本の伝統的な絵を載せ、日本の美術の発展に大きな貢献をしている。そして、日本画という伝統文化を永遠に伝え行くという意味も含まれている。有名な画家たちは先代から受けたものを後世に伝えていこう気持ちで絵を描いた。そこで、天井絵という素晴らしい芸術が完成した。今、あるいは未来の人々は、永平寺に来て、日本画の伝統魅力を感じられる。これは、後世に伝えた証明ではないか。傘松閣の存在は、まさに文化伝承の象徴である。

▲圧倒的な美しさの天井絵も必見
撮影者: WANG YANGYANG



傘松閣

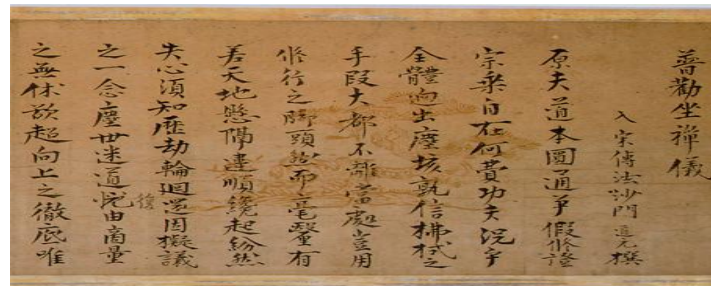
法堂は永平寺の七堂伽藍の最も高いところに位置している。天保9年(1843)の改築で間口18間、奥行14間、約420畳敷で、七堂伽藍中最大の建築物である。正面中央奥に聖観世音菩薩が祀られている。最初は階段が多すぎて疲れた。しかし、法堂に着いてみると、華やかな仏像の威厳が感じられた。また、法堂にいる僧侶たちは一言も言わず、不動の姿勢でいた。法堂は中国仏教から伝来されたものであるため、僧侶が仏教の「黙言修行」を厳格に守っていることを感じる事ができた。神道の比率が圧倒的な日本であるが、仏教本来の姿をとどめる姿がとても印象深かった。永平寺は中国の宋で「座禅」という仏の教えを体得した道元禪師の曹洞宗の大本山である。比叡山からの弾圧にもかかわらず越前国に移され、曹洞宗の礼を今日まで保存している永平寺の僧侶や法堂から仏教文化の伝承を感じてみよう。



「法堂の内部」 撮影者: ZHANG LEI

法堂

珍宝閣は参拝用の吉祥閣の出口に位置する。静寂で質朴な吉祥閣を鑑賞した後、永平寺の文化財の美しさをじっくり味わうには最適である。珍宝閣に入るとまず目に入ったのは「普勸坐禅儀」である。これは永平寺の中で一番有名な文化財である。そして、これも永平寺の多くのコレクションの中で唯一の国宝である。これらの文化財を鑑賞する時、中国の文化が永平寺に与える影響も見られる。それと同時に、珍宝閣の中で、様々な経文がある。それらの経文は全部中国語で書いてある。これも現在の日本の仏教文化の影響だけでなく、日本の書道にいい基礎を築きた。



「普勸坐禅儀(巻頭部分)」 源: Wikipedia

珍宝閣

外国人から見た永平寺

韓国 キム チャヌク

永平寺の中は中国の様式を模倣したものが多かった。だが、境内に入ると定型的な庭園の面影は見れなかったが、700年以上の杉が300本以上植えられているので、その景観は非常に驚異だった。

中国 ZHANG LEI

永平寺は福井県の大切な文化財として、いつも人気である。永平寺へ見学の日もたくさん観光客がいる。そして、永平寺の景色も綺麗、古代建築も立派である。永平寺の建物は伝統的な日本文化の影響だけでなく、中国の仏教文化の影響も受けた。文化は伝承の中でお互いに融合して、本当に素晴らしい。

文化伝承の魅力

永平寺は福井の大切な文化財として、国宝「普勸坐禅儀」を保存している。そして、永平寺は「日本曹洞第一道場」という美称がある。建物だけでなく、景色もいい。

永平寺に入ると、まず永平寺の静かで穏やかな自然風景に引きつけられた。美しい自然の風景に照らされて、林間の人文建築はいつそう神神しい。静かな自然の風景に洗礼されて、心が静かになった。この時に参拝するのが一番いいと思う。参拝用の吉祥閣に入ると、まず日本式の古典建築と荘厳な僧侶に目を奪われ、思わず静かになってしまった。永平寺のおかげで、日本の仏教の発展歴史が分かる。中国の仏教を伝承して、自分の日本文化を融合した後の産物である。それと同時に、私達は様々な細かいところで中国の仏教文化は永平寺に対する影響が見える珍宝閣の中の中国語で書いたお経の文化財も中日両国のかつての友好交流を示している。そのほかに、日本の書道の伝承も見られる。

文化が伝承されているからこそ、今日も千百年前の昔の人が住んでいたところに足を踏み入れ、彼らと同じ文化の味を感じることができる。千百年の時を通して、お互いのコミュニケーションができる。これこそが文化の伝承の魅力かもしれない。

福井駅で永平寺までの特急バスチケットが買える。料金は大人750円、子供380円である。バスは福井駅東口で乗れ、平日は08:45から14:50まで運行している。帰りのバスチケットはバスの終点にある「一休」という店で買える。永平寺について3分ぐらい真っ直ぐ歩いて左に曲がると、お土産物の店が左右に並んでいる。

永平寺の拝観料は大人500円、小・中学生や障害者達は200円である(未就学者は無料)。参拝料を払った場合は、本館に入って観覧順に観覧すれば良い。

永平寺への
交通・料金

永平寺の鐘の音の秘密

永平寺の入口を左手に進むと寂光院があり、そこで鐘を撞くことができる。一人二回までとの表示があったが、寂光院で鐘を撞くと煩惱が消えることができる。その鐘の響きは寂かに人の心を照らすようにする存在である。

困み記事

この紙面は私たちが企画、取材、執筆しました。

教育学部 - ZHANG LEI 国際地域学部 - KIM CHANUK 教育学部 - WANG YANGYANG